

教育委員会の権限に属する事務の 管理及び執行状況の点検・評価

(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項)

(令和7年度)

令和8年9月

君津市教育委員会

目 次

【教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検・評価の概要】

	頁
一 点検・評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・	1
二 点検・評価に関する報告の内容・・・・・・・・	1
三 取組状況及び点検・評価結果の概要・・・・・・・・	1

【教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検・評価結果】

	頁
一 教育委員会会議の開催状況及び審議内容等・・・・・・・・	2
1 教育委員会会議の開催状況・・・・・・・・	2
2 教育委員会会議の審議・報告事項・・・・・・・・	2
(1) 審議内容・・・・・・・・	2
(2) 報告事項・・・・・・・・	3
二 総合教育会議の開催状況及び協議・調整事項・・・・・・・・	4
三 教育振興基本計画の取組状況及び点検・評価結果・・・・・・・・	4
1 令和7年度評価基準の概要・・・・・・・・	4
2 点検及び評価結果・・・・・・・・	5
(1) 自ら考え自ら学ぶ子どもを育成する（学校教育）・・・・・・・・	5
(2) 全ての市民が自己を磨き続けることのできる環境を整える（生涯学習）・・	13
(3) 市民が心豊かに暮らしていける環境を整える（文化・芸術振興）・・	19

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づく 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検・評価

【教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検・評価の概要】

一 点検・評価の目的

効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たす観点から、教育委員会では、毎年その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表するものです。

二 点検・評価に関する報告の内容

次の3項目の状況について報告します。

1 教育委員会会議の開催状況及び審議・報告事項

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育委員による案件の審議を行っており、その開催状況と審議・報告事項について報告するものです。

2 総合教育会議の開催状況及び協議・調整事項

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、市長と教育委員会が、相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進していくために設置された会議で、その開催状況と協議・調整事項について報告するものです。

3 教育振興基本計画の取組状況及び点検・評価結果

教育振興基本計画に掲げる施策について、取組状況を踏まえて点検・評価を実施し、その結果を報告するものです。

三 取組状況及び点検・評価結果の概要

1 教育委員会会議の開催状況及び審議・報告事項（令和7年度）

令和7年度は教育委員会会議を12回開催し、審議案件31件、報告事項39件について審議しました。

2 総合教育会議の開催状況及び協議・調整事項（令和7年度）

令和7年度は総合教育会議を2回開催し、3件の議事について協議・調整を行いました。

3 教育振興基本計画の取組状況及び点検・評価結果（令和7年度）

教育振興基本計画は、計画の実効性を高め、教育施策を強力に推進するため君津市総合計画基本計画と整合を図り策定していることから、施策の評価についても、君津市総合計画実施計画と同一の基準により評価を実施しました。

施策分野ごとの評価は、AからDの4段階のうち、「自ら考え自ら学ぶ子どもを育成する」、「全ての市民が自己を磨き続けることのできる環境を整える」、「市民が心豊かに暮らしていける環境を整える」の3分野は、いずれもB評価としており、施策分野における目標の達成に向け、おおむね順調に進んでおります。

【教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検・評価結果】

一 教育委員会会議の開催状況及び審議内容等

令和7年度に開催された教育委員会会議の開催状況及び審議・報告事項は、次のとおりです。

1 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、毎月定例的に開催しています。

令和7年度は12回開催し、教育委員会の事務執行内容等について審議しました。

2 教育委員会会議の審議・報告事項

(1) 審議内容

人事関係 9件、条例・規則関係 10件、教育行政の運営関係 8件、予算・議会関係 4件の合計 31件の審議を行いました。

区分	審 議 事 項
人事関係	1. 令和7年度教科用図書君津採択地区協議会委員の選出について
	2. 君津市社会教育委員の委嘱について
	3. 公民館運営審議会委員の委嘱について
	4. 君津市図書館協議会委員の委嘱について
	5. 君津市学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱について
	6. 令和7年度君津市優秀な教職員表彰について
	7. 職員の懲戒処分について
	8. 君津市教育委員会委員の人事について
	9. 君津市学校医及び学校歯科医の委嘱について
条例・規則関係	1. 令和7年度教科用図書君津採択地区協議会規約の制定について
	2. 君津市教育委員会会議規則の一部改正について
	3. 君津市特別支援教育就学奨励費支給要綱の一部を改正する告示について
	4. 君津市民文化ホールの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定に関する意見について
	5. 君津市教育支援センター設置条例の一部を改正する条例の制定について
	6. 君津市漁業資料館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について
	7. 君津市図書館規則の一部を改正する規則の制定について
	8. 君津市学校給食費の管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について(その2)
	9. 君津市教育委員会が行う聴聞及び弁明の機会の付与に関する規則の一部改正について
	10. 君津市小中学校情報セキュリティ基本方針に関する規則の一部改正について

区分	審 議 事 項
教育行政の 運営関係	1. 教育財産への用途変更について
	2. 君津市立図書館の臨時休館について
	3. 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検・評価について
	4. 令和8年度使用教科用図書の採択について
	5. 君津市指定文化財の指定解除について
	6. 教育財産（旧大和田小学校）の用途廃止について
	7. 君津市教育支援センターの敷地の変更について
	8. 教育財産（君津市教育支援センター施設）の用途廃止について
予算・議会 関係	1. 令和7年度君津市一般会計補正予算（第2号）のうち教育委員会関係予算に関する意見について
	2. 令和7年度君津市一般会計補正予算（第4号）のうち教育委員会関係予算に関する意見について
	3. 旧清和公民館解体工事請負契約の締結について
	4. 令和7年度君津市一般会計補正予算（第6号）のうち教育委員会関係予算に関する意見について

（２）報告事項

教育長が専決処分した事項等について、教育委員会会議で報告しました。

君津市教育委員会行政組織規則第5条の規定に基づき臨時に代理した処理事項
・ 調停の成立について ・ 令和7年度君津市一般会計補正予算（第9号）について ・ 令和8年度君津市一般会計予算について ・ 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について ・ 君津市公民館の設置及び管理に関する条例及び君津市地域交流センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について ・ 君津市公民館規則及び君津市地域交流センターの設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について ・ 君津市学校給食費の管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について ・ 令和8年度君津市一般会計補正予算（第1号）について ・ 令和8年度教育委員会事務局職員（管理職）及び学校教職員（校長・教頭）の人事について
教育長が出席した主な行事及び出席予定の行事について
専決処分により後援の承認をした行事について
講演会・競技会等の主催・共催行事について
その他重要案件について

二 総合教育会議の開催状況及び協議・調整事項

総合教育会議は必要に応じて随時開催しています。

令和7年度は2回開催し、以下の議事3件について協議・調整を行いました。

開 催 日	協 議 ・ 調 整 事 項
令和7年8月18日	大和田・坂田小学校統合施設整備事業の完了報告について
令和8年3月26日	君津市学校再編基本計画に係る評価について（最終評価）
	君津市教職員働き方改革プランの改正について

三 教育振興基本計画の取組状況及び点検・評価結果

1 令和7年度評価基準の概要

各施策分野の進捗評価については、君津市総合計画実施計画の評価方法と整合を図り、目標の達成に向けた取組み状況を考慮し、下記の評価基準（A～Dの4段階）で総合的に評価を行いました。

施策分野 総合評価区分	
A	施策分野における目標の達成に向け、順調に進んでいる。
B	施策分野における目標の達成に向け、おおむね順調に進んでいる。
C	施策分野における目標の達成に向け、一定程度取組んでいるが、取組内容の見直しが必要である。
D	取組内容に一層の改善が必要である。

2 点検及び評価結果

(1)

教育振興基本計画	第1 自ら考え自ら学ぶ子どもを育成する
総合計画実施計画	柱3-2 学校教育

【現状と課題】※計画策定時

- ・本市の児童生徒の学力は、全国学力・学習調査の全国平均をやや下回っていますが、運動能力は高い水準にあります。運動が好きな児童生徒の割合は国や県の平均と比べて同程度となっています。
- ・道徳や人権について正しい知識を身に付けていくことやグローバル化、情報化の進展など、時代の変化に対応するために必要な資質・能力の育成が求められます。
- ・市内の学校施設は昭和40年代から50年代に建築されたものが多く、老朽化が進んでいるため、適切に維持管理していく必要があります。
- ・多様化する教育課題に対応するため、教員の指導力向上を図る必要があります。

【施策の展開と取組実績】

(1) 子育てできる環境づくり	
① 施策の概要	「子どもが主人公（チルドレンファースト）」の考えのもと、子ども自身が自らの力で成長することを支援するとともに、子どもが自分らしく意見や気持ちを表現できる環境をつくれます。
ア 取組実績	・小学校へサポートティーチャー5名、サポートスタッフ23名、中学校へサポートティーチャー9名、サポートスタッフ6名を配置し、教育支援を必要とする児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制を構築し、学習活動や体験活動等の支援を行うことができた。 ・市内全中学校の生徒会役員代表が集まり、君津市や自校の課題を共有し、全体で力を入れて取り組んでいくことや連帯感を持って一人一人が自分事として意識していけるような活動をしていくことを確認し合った。
イ 課題	・合同生徒会クラスルームを使い情報共有を行っているが、現在は年2回の会議があるときに情報共有が集中している。また、2回目はオンラインでの会議なので、意見の取りまとめが難しかったり、年間を通して意見共有をしていくことが課題である。
ウ 今後の方向性	・第17期全体協議会を実施する。共通取組である「OMOIAI運動（いじめ撲滅の取組）」「SDGs活動」ではフードロスや3Rを意識した取り組みを各学校の実態に合わせ、工夫して活動していく。

② 施策の概要	様々な仲間との交流を通し、社会性を身に付けた子どもの育成を図ります。
ア 取組実績	・上総小学校、小櫃小学校、上総小櫃中学校では、ブラジル・サンパウロ市の松柏学園・大志万学院と姉妹校として相互の児童生徒・先生が訪日と訪伯を交互に実施し、児童生徒が交流を深めることができた。 ・アフリカのマラウイ共和国と市内の小学校を結ぶオンライン交流授業を実施し、児童が文化の違いや共通点を学ぶことができた。
イ 課題	・ブラジルとの交流事業については、訪日使節団の規模が増加しており、ホームステイ受入れ先の不足、市役所での歓迎会の規模の拡大が課題である。
ウ 今後の方向性	・ブラジルとの交流事業については、50年以上続く伝統ある事業のため、引き続き継続していく。 ・外国とのオンライン交流事業についても、引き続き実施について検討していく。

(2) 生きる力を育む学校教育の推進

① 施策の概要	授業の改善を図るとともに、教員研修等を充実させることにより、児童生徒の確かな学力を育みます。
ア 取組実績	・児童生徒の学力向上に向け、学力向上推進委員会において「授業力アップ公開研修」を年3回開催し、算数・数学の授業公開を実施した。 ・授業公開後の協議会では、学力定着に向けた取組について協議し、授業改善に向けた指導方法の共有を図った。
イ 課題	・算数・数学科をはじめ、各教科における授業改善及び基礎的・基本的な内容の定着
ウ 今後の方向性	・授業力向上に向け、教員のニーズに応じた授業公開の機会を提供し、授業改善を推進する。

② 施策の概要	道徳・人権教育の推進により、児童生徒の思いやりのある豊かな心を育みます。
ア 取組実績	・日頃の授業をはじめ、教育活動全体を通じて道徳教育の充実に取り組んだ。 ・児童生徒アンケートでは、「友達との話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した児童生徒の割合が、小・中学校ともに80%を超えた。
イ 課題	・7月に実施した道徳研修や9月に生涯学習文化課と共催で開催した学校人権教育研究協議会に教職員が参加しそこで学んだことを広く学校全体に周知し共有及び実践を継続していく。
ウ 今後の方向性	・児童生徒が直面している課題に目を向け、授業だけでなく教育活動全体を通じて支援を行うとともに、学校と保護者との連携を深める。

③ 施策の概要	児童生徒の体力向上を図るため、達成感を味わえる学習体制や環境づくりに取り組むことで、自ら進んで運動に親しむことができる資質を養います。
ア 取組実績	・体力向上プロジェクト委員会において、体力テストの数値や体育学習の指導法について協議を行い、考えを深めた。 ・「持久力ランキング」の取組として、市内小中学校を対象に年2回記録を集計し、各学年の男女別上位20名に記録証を発行した。
イ 課題	・体力テストの数値から「反復横跳び」や「50m走」「立ち幅跳び」といった瞬間的に大きな力を発揮する種目に課題がある。義務教育では健やかな毎日を過ごすための土台作りとして、全面的な体力の向上が求められており、千葉県運動能力証の合格率の向上を目指し、個々の実態に応じた体力向上への取り組みを考え、実践していく。
ウ 今後の方向性	・小中学生の体力の現状を把握し、その実態に応じた体力向上への取り組みを遂行していく。

(3) 新しい時代に必要な資質・能力の育成	
① 施策の概要	GIGAスクール構想のもと整備された「1人1台端末(タブレット)」及びICT機器等を積極的に活用し、これからの社会で求められる力を伸ばします。
ア 取組実績	・令和7年度における児童生徒の1人1台端末(タブレット)及びICT機器を活用した授業時間数は、1学級あたりの月平均で、小学校21.2時間(4月～7月)、中学校15.2時間(4月～7月)となった。指導内容に応じた端末の活用を通して、社会で必要となる情報活用能力の育成を図った。 ・市内全小中学校において、プログラミング教材「Root」を活用した、プログラミング教育を実施した。 ・活用型情報モラル教材「GIGAワークブックきみつ2025」を作成し、児童生徒の「情報モラル」や「情報活用能力」の育成・向上を図ることができた。
イ 課題	・1人1台端末の導入から5年、校務用パソコン等のICT機器の導入から7年が経過し、バッテリー劣化など経年劣化に伴う故障件数が増加している。
ウ 今後の方向性	・指導内容に応じた1人1台端末及びICT機器の効果的な活用を推進するため、教職員を対象とした希望研修を実施するとともに、経年劣化による機器の故障への適切な対応を進める。

② 施策の概要	教員の英語の授業力向上により、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上を図ります。
ア 取組実績	・ALTと連携した授業を実施し、英語指導の充実を図った。 ・市独自の取組である「English Day Camp」、「英検プラクティス」及び季節のイベントを実施し、児童生徒が英語に触れる機会を創出するとともに、英語によるコミュニケーション能力の育成を図った。
イ 課題	・授業力の向上と児童生徒の英語力の向上
ウ 今後の方向性	・ALTを効果的に活用し、教員の授業力向上及び児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成を図ることで、世界で活躍できる「きみつつ子」の育成を目指す。

(4) 脱炭素社会の実現に向けた環境教育の推進	
① 施策の概要	児童生徒への環境教育を通じて、環境にやさしく脱炭素につながる知識を学び、新しいライフスタイルの浸透を図ります。
ア 取組実績	・海洋教育パイオニアスクールプログラム助成金を活用し、市内小中学校7校できみつSDGs×つながる山・川・海学習プログラムを実施した。 ・包括連携協定を締結した内山緑地建設株式会社との共催で『こども体験学習会「子ども自然観察会～どんぐり拾い&種まき体験～」の参加者（小学生とその保護者）を募集したが、雨天のため中止となった。
イ 課題	・きみつSDGs×つながる山・川・海学習プログラム実施には、学校側の負担や資金面での負担がかかるため、市関係各課からの手厚い人的サポートが必要である。 ・限られた財源の中で、効果的な環境教育を推進できるよう新たな取組を検討する必要がある。
ウ 今後の方向性	・海洋教育パイオニアスクールプログラム助成金を活用して作成した「きみペディア（SDGs探究百科）」を活用した取組を広めていく。 ・児童生徒を対象とした体験や講演等の事業について、引き続き、市関係各課と連携しながら推進していきたい。

② 施策の概要	脱炭素につながる学校での環境教育の取組を、家庭や地域へ発信します。
ア 取組実績	・市内の小中学校において、企業や県の研究センターから講師を招聘し「ブルーカーボン」に関する出前授業を行った。
イ 課題	・小学生にとって理解が難しい内容であるため、座学だけでなく体験活動を取り入れた授業展開が必要であり、授業準備に係る負担が大きい。
ウ 今後の方向性	・引き続き、専門的知見を有する講師を招聘するとともに、体験活動等を取り入れるなど、児童生徒が理解を深められる学習内容の充実を図る。

(5) より良い学校環境の整備	
① 施策の概要	市内全ての子どもたちにとって「活力ある魅力的な」学校づくりを推進します。
ア 取組実績	・小中学校の特別教室に空調設備を設置するとともに、使用頻度が高い教室などの照明について、LEDに更新しました。
イ 課題	・学校から要望のある体育館へのエアコン設置や防犯カメラの増設等についての検討が必要である。
ウ 今後の方向性	・施設整備の優先度を勘案しながら、検討する。

② 施策の概要	周西の丘小学校をはじめ、老朽化が進む市内小中学校の施設整備を進めます。
ア 取組実績	・周西の丘小学校については既存校舎の改修、屋内運動場の改築、校舎の増築を実施し、令和7年8月に竣工した。 ・老朽化が進む市内小中学校の施設整備については、児童生徒の安全対策を最優先に修繕を実施しました。
イ 課題	・老朽化した施設が多く、修繕が必要な個所が年々増加しており、対応が追い付いていない。
ウ 今後の方向性	・「君津市学校施設の個別施設計画（長寿命化計画）」に基づく整備を実施していく。

③ 施策の概要	トイレの洋式化や多機能トイレの設置を推進し、学校環境の改善を図ります。
ア 取組実績	・国庫交付金を活用することにより、小中学校4校のトイレの洋式化工事を実施した。
イ 課題	・トイレの洋式化率が低い小中学校が存在することから、引き続き整備が必要である。
ウ 今後の方向性	・「君津市学校施設の個別施設計画（長寿命化計画）」に基づき、引き続きトイレの洋式化に関する改修を進めていく。

④ 施策の概要	学校を支援する人材を確保し、地域と学校が連携・協働して、子どもたちの成長を支えます。
ア 取組実績	・各学校からの申請に基づき、自治会やPTA等から学校評議員を選出し、開かれた学校づくりの推進のための意見を聴取することができた。 ・地域住民へスクールボランティアへの登録を呼びかけることで、より良い学校環境の整備に協力していただくことができた。
イ 課題	・児童生徒の発達段階や地域の実情により、必要とされるボランティア活動の内容が異なることから、学校間でボランティア登録者数に差が生じている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により活動機会が減少したことで、登録後に活動への参加が少なくなったボランティアがある。
ウ 今後の方向性	開かれた学校づくりを推進するため、地域住民の協力を得ながら、各地域の実態に応じたスクールボランティア活動の充実を図る。

【指標の達成状況】

指標名	現状値 (時点)	実績値					目標値
		R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 8 (2026)
①「自ら考え 自ら学ぶこと ができてい る」と感じる 児童生徒の割 合	新規	小学校	小学校	小学校	小学校		70.0%
	—	72.3% 中学校 72.7%	72.4% 中学校 72.1%	73% 中学校 73%	78.0% 中学校 77.8%		
②「児童生徒 の間で話し合 う活動を通じ て、自分の考 えを深めたり 、広げたり することがで きていると思 う」と感じる 児童生徒の割 合	新規						70.0%
	—	小学校 72.9% 中学校 70%	小学校 76.3% 中学校 79.6%	小学校 76.7% 中学校 75.3%	小学校 82.9% 中学校 86.1%		
③全国学力・ 学習調査の全 国との相対値	小6国語 95、算数 94 中3国語 94、数学 89	小6国語 93、 算数94 中3国語 96、 数学86	小6国語 94.8、 算数 91.5 中3国語 90.8、 数学 79.3	小6国語 91.8、 算数 86.8 中3国語 91.3、 数学 66.2	小6国語 90.1 算数 89.2 中3国語 93.9 数学 76.7		小6国語 100、 算数99 中3国語 99、 数学94
	令和3年度						
④授業中にタ ブレット端末 を週3日以上 使用するクラ ス	新規						80.0%
	—	63.3%	77.7%	89.5%	94.70%		
⑤学校施設に おける トイレの洋式 化率	41.7%						60.0%
	令和2年度	62.6%	62.6%	62.6%	74.60%		

【総合評価】

総合評価	B	評価理由	I C T機器の整備や、外国語教育、環境教育、体力向上等の施策の推進や、周西の丘小学校の施設整備が完了するなど、各種施策は概ね順調に進んでいる。 また、指標の状況についても、目標値を概ね達成していることや、トイレの洋式化率も大幅に上回ることなどを総合的に評価し、Bとした。 引き続き、各種施策の推進や、老朽化した学校施設の整備にも、計画的に取り組んでいくとともに、学力の向上についても、対策を検討していく。
------	---	------	--

(2)

教育振興基本計画	第2 全ての市民が自己を磨き続けることのできる環境を整える
総合計画実施計画	柱3－3 生涯学習

【現状と課題】※計画策定時

・身近な学習・地域活動の拠点として各地区に配備されている公民館を将来にわたって長く使えるよう、長寿命化と改修を計画的に行っていく必要があります。 ・周南公民館、小糸公民館、清和公民館、小櫃公民館は老朽化が進み、対策が必要になっています。また、中央図書館は、設備や屋根、外壁等の老朽化対策が必要となっています。 ・デジタル技術を活用した生涯学習の展開など、地域や社会の新たなニーズや、公民館に直接来ることが難しい人などにも対応できる事業展開が求められています。 ・子どもたちの豊かな成長を育む社会教育活動を継続的に展開していくことが求められています。 ・図書館においては利用者数、貸出冊数ともに減少傾向にあります。多種多様な情報の中から信頼性の高いものを選び、社会の変化や市民のニーズに応じた資料を提供することが必要です。
--

(1) 身近な場所で学び続けられる環境の整備	
① 施策の概要	君津市社会教育施設の再整備基本計画に基づく「第1期プラン」に沿って清和公民館の複合化等の再整備を進めます。
ア 取組実績	・令和7年10月から旧清和公民館の解体に着工した。着工前に周辺地域住民に説明を行った。
イ 課題	・工事終了後の土地返還に向けて庁内や地権者と協議を行い、方向性を定める必要がある。
ウ 今後の方向性	・庁内や地権者との合意形成を図り、必要に応じて土壌改良工事などを経て地権者へ返還していく。

② 施策の概要	周南公民館、小糸公民館、小櫃公民館については老朽化や使用形態など、各施設が置かれている状況を総合的に考慮して計画的に再整備を進めます。
ア 取組実績	・建設物価上昇を鑑み、整備費負担の軽減を図るべく、補助金の活用を検討や整備手法の一つとして「リファイニング」について検討した。
イ 課題	・現計画への地域合意形成、高騰する建設物価に起因する事業費の増大、及び財源確保
ウ 今後の方向性	・令和6年度に実施したPPP／PFI導入可能性調査を踏まえ、今後、個別施設計画の見直しや後期総合計画の策定にあわせ、地域や利用者の合意形成を図れるように、整備手法、整備時期等を検討していく。

③ 施策の概要	中央図書館の老朽化対策を計画的に行い、快適に学ぶことのできる環境を提供します。
ア 取組実績	・館内の軽微な修繕を行い、施設の維持管理を図った。
イ 課題	・設備の耐用年数超え、交換部品がないなど修繕が難しい設備や法令等の改正により、現行基準への改善を推奨されている設備があり、計画的に改修を行っていく必要がある。
ウ 今後の方向性	・事後保全と合わせ、老朽化対策を計画的に行い、施設の長寿命化を図る。

(2) 子どもも大人も学び成長し続けられる機会の充実	
① 施策の概要	デジタル技術の活用による学習機会の提供に取り組みます。
ア 取組実績	・デジタル社会への対応のため、スマートフォンの基本操作、活用講座及びデジタル工作機器活用を目的とした講座を開催した（5館、6事業、207人参加）。
イ 課題	・民間事業者及び本市他課が実施する「君津市スマートフォン出張講座」等、類似の学習機会がある中で、内容のすみ分けや各種主体者と連携した取組を検討する必要がある。 ・対面とオンラインを効果的に組み合わせたデジタル技術の活用による学習機会の提供が十分にできていない。
ウ 今後の方向性	・市民が自身で主体的に情報を判断・活用する能力であるメディアリテラシーを高めることができる機会を市内公民館と連携し提供していく。

② 施策の概要	公民館において、生きがいづくりに役立つプログラムや、暮らしの課題解決に役立つプログラム、子どもたちの夢を育むプログラムなど、多様な事業展開に取り組みます。
ア 取組実績	・8機関278プログラムを実施し、延べ参加者8,872人が参加した。 (「小櫃地区防災講座」、「介護家族のひろば」、「地域づくり協議会支援事業」、「すさい子ども教室」、「親子 de 冒険山特別企画・パパとキッズの初めてのジビエ料理」)
イ 課題	・生きがいづくりに役立つプログラムでは、参加者の固定化傾向がみられる。 ・暮らしの課題解決に役立つプログラムでは、多様化・複雑化する学習ニーズへの対応が必要である。 ・子どもたちの夢を育むプログラムでは、学校との連携は進んでいるものの、多様な事業の展開となっていない。
ウ 今後の方向性	・「地域の人材、学校、専門家、NPO、企業等」との連携を進め、多様な事業展開に取り組む。

③ 施策の概要	公民館を使ったことがない人にも参加しやすい事業の工夫や、地域内外の交流を深める事業展開で、より幅広い人に活用される公民館づくりに取り組みます。
ア 取組実績	・ 公民館を使ったことがない人にも参加しやすいよう、カフェ形式やロビー活用、夜間開催などの工夫を取り入れた事業を展開した。 （「夜Café『子どもの心を伸ばすには～名将からのメッセージ～』」、「つながるロビーづくり（ニットカフェ）」、「おびつあそんべ食堂」、「ひだまりひろばプロジェクト」） ・ より幅広い人に活用される公民館を目指して、地域に出向くアウトリーチ型事業の展開を図った。 （「自治会学習活動応援事業」） ・ 地域内外の交流を深める事業を展開した。 （「清和の魅力探訪ウォーク」、「上総の“山”と“歩く”を楽しむ教室」、「ふるさと周南ウォッチング」、「松本ピアノと戦争～解説・演奏会」）
イ 課題	・ 公民館を使ったことがない人への効果的な周知や参加促進が十分でなく、具体的なアプローチにつながっていない。 ・ 各地域には自然や歴史などの豊かな地域資源があるが、地域外の人が参加したくなる魅力あるコンテンツとして発信しきれていない。
ウ 今後の方向性	・ 「学級・講座への参加」などの目的がなくても、気軽に立ち寄っていただけの空間づくりを進める。 ・ 地域の魅力あるコンテンツを「学び・体験」の機会として発信し、地域内外の交流をより深めることができる事業展開を進める。

④ 施策の概要	地域住民、団体、企業などと連携・協力することで生涯学習メニューの充実を図ります。
ア 取組実績	・学校・生徒との連携した事業を展開した。 （「花いっぱい運動」、「中学生によるカフェ運営」） ・NPO、ボランティア団体等と連携した事業を展開した。 （「体験せいわ学」、「ちょボラの会による環境“快”善」、「認知症カフェ周南ほっとサロン」） ・地域企業と連携した事業を展開した。 （「おやこびと広場たき火交流会」）
イ 課題	・多くの事業が地域団体、サークル、自治会との連携により実施されているが、これらの団体において高齢化や担い手不足に伴う事業の持続可能性や連携先の負担偏重といった課題を抱えており、今後の事業実施方法等に検討が必要となっている。 ・企業との連携においては、本市と包括連携協定を締結している事業者や既に連携実績のある事業者との取組が中心となっており、事業内容の固定化傾向がみられる。
ウ 今後の方向性	・団体の自立や活性化に向けた公民館による伴走支援を充実させることで、団体の主体的な活動を促進させ、市民の学習機会の拡充を図る。 ・市内企業のSDGs活動やCSR活動と連携を図りつつ、専門性やノウハウを取り入れた多様な事業を展開していく。

(3) 自主的に学び続けられる読書環境の整備	
① 施策の概要	絵本の読み聞かせやビジネス支援講座など各年代に対応した参加型イベントにより、市民が多種多様な資料に接する機会を充実させ、図書館の利用促進を図ります。
ア 取組実績	・定例おはなし会20回、季節のおはなし会4回、わらべうた19回、映画鑑賞会12回、きみつまちライブラリー2回、児童文学講座、読書バリアフリー体験など参加型イベントを実施した。
イ 課題	・読み聞かせボランティアの不足や多様なニーズへの対応を図っていく必要がある。
ウ 今後の方向性	・読み聞かせボランティアの育成、支援を行う。 ・多様なニーズに対応した参加型イベントを実施する。

② 施策の概要	社会情勢の変化や市民ニーズを的確に把握した図書館資料を収集し、市民が必要とする情報を入手しやすい環境づくりを推進します。
ア 取組実績	・新刊や市民からのリクエストを参考に資料を購入した。図書等のリクエスト53, 155件、貸出数439, 194冊の利用。 ・図書館の利用満足度を把握し、今後の図書館運営に役立てるため、図書館利用者アンケートを実施した（回答数1, 284件）。
イ 課題	・市民ニーズに合った図書館資料の充実を図る必要がある。 ・利用者アンケートで寄せられた意見を、今後の図書館サービスにどのように生かすか検討する必要がある。
ウ 今後の方向性	・図書館資料の充実による市民の読書活動の推進を図るとともに、アンケートや結果を参考に図書館サービスの見直しを検討する。

③ 施策の概要	図書館サービスのデジタル化を推進し、図書館の利便性向上を図ります。
ア 取組実績	・令和7年9月に図書館システムを更新し、セキュリティの強化や予約サービスの一元化等、利便性の向上を図った。 ・電子書籍は、新規登録者368人、サービス利用件数（ログイン数）5, 082件、貸出数2, 086点の利用があった。
イ 課題	・電子書籍は紙に比べ、提供タイトル数が少ないことや維持経費がかかることなどから、令和7年度末でサービス休止としたため、今後再開の検討を図る必要がある。
ウ 今後の方向性	・他図書館の動向を注視し、図書館サービスのデジタル化の推進、利便性の向上を図る。

【指標の達成状況】

指標名	現状値 (時点)	実績値					目標値
		R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 8 (2026)
①公民館利用者 向けアンケート での公民館事業 における 満足度	新規	88.7%	91.6%	90.2%	90.2%		90.0%
	—						
②図書館利用者 向けアンケート での利用満足度	新規	—	66.82%	78.4%	79.0%		70.0%
	—						

【総合評価】

総合評価	B	評価理由	公共施設の適正配置に向けて旧清和公民館の解体等を行うとともに、適切な維持管理に努め、身近な環境で学び続けられる環境整備を推進した。 また、地域団体、学校、NPO、企業等と連携し、地域資源や専門性を活かした特色ある事業を展開することで、子どもから大人まで学び、成長し続けられる機会の充実に努めた結果、公民館事業における満足度は目標値を達成した。 さらに、図書館システムの更新による利便性向上を図るとともに、イベントの開催や多様なニーズに対応した資料を提供し、読書に対する興味、関心を喚起することで、自主的に学び続けられる読書環境を推進し、図書館の利用満足度向上につなげた。それぞれ目標値を上回る結果となったが、図書館施策の電子書籍サービスが令和7年度末をもって休止など、利便性の低下があることから総合評価をBとした。
------	---	------	--

(3)

教育振興基本計画	第3 市民が心豊かに暮らしていける環境を整える
総合計画実施計画	柱3－4 文化・芸術振興

【現状と課題】※計画策定時

・文化財の保管施設は、老朽化が進むとともに市民が所有する歴史資料の新たな受け入れ等が困難な状況にあり、市内に残る文化財や文化遺産の保存及び次世代へ継承していくための対策が必要です。 ・文化・芸術活動をしている各種団体においては参加者の固定化と構成員の高齢化がみられ、団体活動の継続が課題となっています。また、伝統芸能の保存団体では後継者不足が深刻化しており、新たなニーズや時勢に見合った事業の企画や環境づくりが必要です。 ・子どもから大人まで、郷土の歴史に親しむ活動を継続的に展開していくための事業を行い、郷土の歴史を後世につないでいくことが求められます。
--

(1) 多彩な文化・芸術に触れ親しむことができる環境づくり	
① 施策の概要	様々な年代の市民が文化・芸術に触れ親しむことができる環境づくりを進めることで、文化・芸術活動への積極的な参加を促進します。
ア 取組実績	・君津市民文化ホールを拠点とし、「おやこ de オペラ」や映画を上映する「きみぶんシネマ倶楽部」、各種コンサート、落語等、様々な年代の市民が多様な文化・芸術に親しむことができる事業を実施した。
イ 課題	・君津市民文化ホールにて実施している事業によっては、集客につなげていないものもあるため、集客力の向上に向けた取組が必要である。
ウ 今後の方向性	・君津市民文化ホールを拠点とし、様々な年代の市民が多様な文化・芸術に親しむことができる事業を実施する。

② 施策の概要	文化振興のための市民活動団体を支援し、活動を継続させることで、伝統文化の継承を図ります。
ア 取組実績	・君津市文化協会、君津市民合唱団、きみつ少年少女合唱団ほか2団体に補助金を交付し、文化振興のための市民活動を支援するとともに、茶華道や詩吟等の伝統文化の継承を図った。 ・君津市文化協会は「チャリティー市民芸術祭」、「市民芸術祭」、君津市民合唱団は「定期演奏会」、きみつ少年少女合唱団は「Xmas コンサート」等を開催した。
イ 課題	・市民活動団体では、会員の高齢化により継続的な活動が難しくなっていることから、伝統文化継承に向けた取組が必要である。
ウ 今後の方向性	・文化振興を目的とした市民活動団体に補助金を交付することにより、その活動を支援し、茶華道や詩吟等の伝統文化の継承を図る。

(2) 文化・芸術に係る環境の整備	
① 施策の概要	君津市民文化ホール等の施設の適切な維持管理を図ります。
ア 取組実績	・君津市民文化ホールでは、指定管理者に適切な運営管理を徹底するとともに、大・中ホールの特設天井改修工法調査委託を実施した。
イ 課題	・君津市民文化ホールは築35年を経過し、修繕を要する箇所が増加している。一方で、大規模修繕に必要な財源の確保が難しく、小規模修繕による延命化を図っている。
ウ 今後の方向性	・君津市民文化ホールでは、指定管理者による適切な運営管理を徹底するとともに、必要な修繕を実施し、大規模修繕に向けた財源確保等、対応方法を検討する。

② 施策の概要	資料館の施設の立地等を含めた今後のあり方について検討を進めます。
ア 取組実績	・漁業資料館においては、他施設への複合化等を含めた今後のあり方について関係機関と協議を行った。その中で、まずは休館日の見直しを行った。
イ 課題	・久留里城址資料館においては、令和5年5月の地震で被災した天守閣鯰瓦・屋根瓦の修繕が未着手なので早期に復旧を図る必要がある。 ・漁業資料館のあり方については、地域づくりの観点からも地元住民との長期的な協議が必要となる。
ウ 今後の方向性	・漁業資料館においては、他施設への複合化等を含めた今後のあり方について関係課および地域住民と協議を行う。

(3) 地域の伝統文化を次世代につなげる環境づくり	
① 施策の概要	学校と連携した歴史学習等を通じて、地域に残る伝統文化の保護と継承を図ります。
ア 取組実績	・依頼があった外箕輪小学校・周南小学校において、学区周辺の遺跡や歴史に関する学習支援を行った。 ・漁業資料館では、幼稚園の校外学習における展示解説やノリつけ体験のほか、小学校で昔の漁業道具を用いた出前授業を実施した（出前授業3校252人）。 ・久留里城址資料館では、校外学習での解説や、昔の道具体験の出前授業を行った（来館7校、出前授業4校、児童計591人）。
イ 課題	・令和6年度をもってスクールミュージアム事業が終了したことから、学校との継続的な連携について、検討する必要がある。 ・郷土の歴史や市内に残る文化財・文化遺産を保存し、次世代へ継承していくための取組を一層推進する必要がある。
ウ 今後の方向性	・市内小学校の校外学習等による歴史学習を通じて学校との連携を推進し、地域に残る伝統文化の保護と継承を図る。

② 施策の概要	市内外への文化財の魅力発信や文化財を活用した学習機会の拡充により、伝統文化の継承を図ります。
ア 取組実績	・昨年度に発掘調査を実施した九十九坊廃寺跡の出土遺物公開展及び発掘調査成果報告会を開催した。また、九十九坊廃寺跡の所在地区である八重原公民館と連携し、文化祭での展示やワークショップを実施するなど、地域住民に向けた文化財の魅力発信を行った。 ・江戸時代の政治家であり、学者、詩人としても知られる新井白石について、新井白石没後300年記念事業実行委員会との共催により、資料所有者の協力を得て、貴重な資料を紹介する展示を行った（来館者2,718人）。 ・松本ピアノの魅力発信と連動して歴史資料を活用し、公民館と連携して展示を行うなど、地域の文化財の魅力発信を行った。
イ 課題	・郷土の歴史や市内に残る文化財、文化遺産について、魅力がより効果的に伝わるように周知方法を工夫する必要がある。 ・文化財の魅力発信や活用の基礎となる調査・研究の拡充が課題である。
ウ 今後の方向性	・市内外への文化財の魅力発信や文化財を活用した学習機会の拡充により、伝統文化の継承を図る。

③ 施策の概要	文化財の所有者や保存団体等が行う修復や継承活動を支援するとともに、地域に残る伝統文化などを文化資源として周知を図ります。
ア 取組実績	・指定無形民俗文化財保存団体6団体に補助金を交付することで、文化財の所有者や保存団体等が行う修復や継承活動を支援した。 ・重要無形文化財「長板中形」の出張講座（市内3件68人、市外4件71人）や、千葉県登録有形文化財となった亀山神社の建築の展示、久留里線の展示等により文化資源の周知を図り、講座や展示後の資料・画像・パネル等の現地活用により、関係者の継承活動を支援した。
イ 課題	・文化財の所有者や保存団体等の後継者不足により、継承活動の維持が困難となっていることから、維持・継承に向けた取組が必要である。
ウ 今後の方向性	・引き続き文化財の所有者や保存団体等が行う修復や継承活動を支援するとともに、地域に残る伝統文化などを文化資源として広く周知を図っていく。

【指標の達成状況】

指標名	現状値 (時点)	実績値					目標値
		R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 8 (2026)
①市民文化ホール利用者の満足度	97.6%	98.0%	98.3%	97.6%	97.8%		100%
	令和2年度						
②文化資源を活用した事業の満足度	新規	93.6%	96.0%	87.7%	98%		80.0%
	—						

【総合評価】

総合評価	B	評価理由	多彩な文化・芸術に触れ親しむことができる環境づくりや地域の伝統文化を次世代につなげる環境づくりについては、概ね順調に実施できている。 また、文化・芸術に係る環境の整備については、市民文化ホールの特定天井改修工法調査委託を実施し、改修工事に向け取り組むことができた。 しかしながら、長寿命化に向けた検討や漁業資料館のあり方の検討が進んでいない状況のため、総合的にBと評価した。
------	---	------	--